

## 平成30年度第2回定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：平成30年11月13日（火）13：30～

場所：函館市役所8階大会議室

（13:30 開会）

### <挨拶>

#### （函館市国際・地域交流課長）

7月に第1回の会議が行われたが、それから秋に台風、地震があり、多くの方が被害に会われ、数日間停電もあり、私生活、仕事の面で大変ご苦勞あったと存じます。この場を借りてお見舞い申し上げます。

さて、本日は第2回の懇談会であり、2次ビジョンについての審議、現在のビジョンの今年度の変更についての審議、現在のビジョンの進捗状況についてのお知らせ、現在のビジョンの決算についてみなさんにお示ししたいと思う。また、前回の議論の中でKPI目標数値についてご意見をいただいた。今回は国の資料を見て頂きながら意見交換をさせていただきたいと思っている。みなさまからのご意見を今後の取り組みの参考にさせていただきたいと思っているので、皆さんが日頃から関わっている分野、さまざまな分野の広域連携について、地域連携について思っていることを積極的にご発言いただき、今後の行政の施策の参考にさせていただきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

今年度の懇談会これで終了する。会議の冒頭ではあるが、委員の皆様におかれては、たいへんお忙しい中、遠いところからこの会議にお集まり頂き、心よりお礼申し上げます。今後とも引き続き、安心して暮らせる地域づくりにご理解とご協力をいただければ幸いです。

### <議 事>

（南部座長）議題に入る前に、前回欠席だった、八十科委員から自己紹介を兼ねて地域の課題などお伺いできればと思う。

（八十科委員）今回で2回目の選任であり、この会を通してみなさんと意見交換し、町のため、広域で全体のために勉強していけたらと思っている。

上ノ国町は皆さんのところと一緒に、人口が予想より早い勢いで減っているが、町や民間と一緒に考えながら産業の振興のため、子どもの教育費用の削減など、うちの町に住んでいただきやすいような環境をつくっているところである。それでもやはり苦戦しているというのが現状なので、みなさんと共に色々

なことを考えながらプラスにしていければと思っている。

【議題1】事務局より資料1に基づき説明

(意見・質問等 なし)

【議題2】事務局より資料2に基づき説明

(吉崎委員) 資料2の11ページについてご説明があったが、救急救命センターと表記されているが逆であり、救命救急センターというのが正式である。

(事務局) 確認し、訂正させていただきたい。また、資料1の第2次ビジョンについても同じ表現となっているので、併せて訂正させていただきたい。

<その他>

【議題1】事務局より資料3に基づき説明

(意見・質問等 なし)

【議題2】事務局より参考資料に基づき説明

(南部座長) KPIに関しては、前回、第1回の時に色々ご意見をいただき、現状にあっていないのではないかと、もっといい指標があるのではないかと、ということの問題提起していただいたことで、これから更に議論した上でしっかりと評価できるような指標を設定していく方向になると理解できると思う。この件に関して、追加でも良いし、今日ここで議論するよりも、議論の種を蒔いていただくようなイメージで、KPIに関する事で何かご意見、ご質問があればお願いしたい。

(山田委員) KPIのことであるが、来年度からの計画のために今年指標を見直すということではなかったのか。

(中村課長) KPIであるが、各市町、担当課、それから事業者等と一定程度議論しながら積み重ね、7月の懇談会で皆様にご提示させていただいたが、秋の南北北海道市町村連絡協議会議やパブリックコメントの日程もあり、KPIを見直すことは無理であった。共生ビジョンは毎年必ず見直してきたのがこの5年間の実績であり、来年度議論した上でKPIを変更させていただくつもりでいた。

(山田委員) てっきり今年度変わると思い込んでいた。22ページの滞在型観光

の推進の中で、前回私が推したのは基準値 1.20 の計算が宿泊客全体の平均値であるのならば、滞在型観光を促進することで、日帰りの人はカウント外であるが、その人が一泊したら 1.0 になり平均値が下がることから、それは違うのではないかということ伝えていたが、それで変わらない。来年以降、皆さんと意見交換しながらやっつけようということであればそれは分かったが、てっきりそういったものが変わり、資料が出てくると思っていた。

(中村課長) 日程表にもあったが、パブリックコメントが秋の初めにあり、年に 1 回必ず市長、町長の意見を聞くこととなっている。そこまでに部分的にではなく、全体にわたって適当な KPI にするために検討が必要と考えていたため、時間をかけて検討させていただきたい。観光についても前回のビジョン懇談会で三浦委員の方から、ただ単にプロモーションの回数ではなく、これは総務省の資料にもあったが、ホームページのアクセス回数であるとか色々な考え方があろうかと思う。部分的にではなく、みなさまのご意見、山田委員から以前いただいたご意見も含めて議論しながら、改めて提示させていただきたいと思う。

(南部座長) 私の印象だと先送りしたということではなく、これから議論をスタートするという体制になって、来年以降に議題として残ったと考えており、あまり間に合わせでその場で替えてしまおうというよりは、一個一個ポイントをはっきりさせ、KPI がどうあるべきか。考え方は色々あると思うので、その時の議論に基づいて、最適な KPI を随時更新していくことのはじまりかなとイメージしているので、私が来年ここにいるかわからないが、来年以降にまたご意見等、あるいは関心をもって見守っていただけたらいいと思う。ほかにももっとこうした方が良いと言っていたら、来年以降の動力になっていくと思うので、ぜひ言葉を残していただきたい。

それでは KPI も含めて、今日はいつものに比べてテンポ良く進んでおり、けっこう時間に余裕があるので、いったんここで KPI の議論についてはクローズさせていただきたいが、今のことも含め、全体について、せつかくそれぞれの場所と分野から来ていただいているので、今年度はこれで終わりになるが、ぜひ一言、二言。もっと伝えたいことがある方は多く残して欲しい。来年度以降は、新しい第 2 次が始まるので、そこに向けて、道南の未来に向けて、言いたいことがあれば全部言っていたらと思う。

(吉崎委員) いいたいことはこれまでの会議でも言ってきたので、追加することはないが、皆様もご承知のとおり、この道南地域においては医師をはじめとした医療のスタッフの確保が非常に困難であり、札幌だとか旭川は医科大学も

あり、色々な専門学校があるので、その卒業生がそういった地域に就職されるというのはごく普通のことであるが、道南地区もそうであるが釧路や稚内といった地域に関しては、医療スタッフの確保がどの地域も大変であり、そういう意味では何とかして、定住ということも同じであるが、人の確保が今後も重要になってくるので、そういったところでも皆様のご支援・ご協力をいただければ幸いである。

（渡部委員）先程、人口の減少というお話があり、25年で15万人もの人間がいなくなってしまうということで、年間で6千人ぐらいがこの道南からいなくなってしまうというのは、たいへん危機的な話だと受け止めている。特に観光、それから路線バスの業界についても、今年は9月の地震やブラックアウトがあって大変な収入減少になっている。今後どうやってこれを持ち直すか、また、人口減少をどうやって克服し、生活しやすい、皆さんがより快適に過ごせる地域交通であるためにはどうすればいいのかということが本当に必要であるし、急務な話だと思いながら、皆さんのお知恵を拝借しながら道南の活性化につなげていきたいと思う。

（山田委員）特に観光という面から考えた場合に北海道新幹線の開業効果も落ち着いてしまった。そのようななかで、いずれ新幹線が札幌まで延びてしまう。そうすると余計素通りされてしまう危惧があるので、これからの道南観光を考えていくために、なにかしらいろいろ滞在して、新しいメニューとかを地域皆あげて取り組んでいかなければいけないのかなと改めて感じた。また、人口が減少していく中で、例えば、若い人がどういう考えでいるのか、できればこういう会議のなかで意見を汲み取る方法はないかと感じた。

（新井田委員）広域的な事業は非常に難しい問題だと思う。総論では皆さん賛成、賛成ということであるが、各論に入っていくとそれぞれの思惑があったりして難しいと常々思っている。その中でみなさん仰るように、道南の人口問題は非常に危惧している。全国的なものだと思うが、特に道南、我が町木古内町の指数を見ると危機的な状態だと感じた。そのような中でこれから外国人・インバウンドなどをどんどん活用するとか利用するとか、言葉は良くないが、そうしていかないと地域の経済が成り立っていないということを常々感じている。我々の時代ではなく、我々の子どもだとか孫の時代に、この地域で生業が成立するような世の中になってほしいということを感じながら、この会議にいつにも出席させていただいていた。

(赤塚委員) いつも商工関係の話になってしまうが、人口減ということは先ほど委員の皆さんから出ていたが、ご多分に漏れず当町もかなり減っている。減ったところはどんな人が残るのだろうかと思像してみると、やはりお年寄りが中心に残っているというのがある。そうすると医療問題、アクセス問題もある。いかに残っている人が快適にその町で暮らせるかということ考えると、気持ち的に不安な面もあるし、自分も頑張っていかなければならない。幸い私は後継者がいるので、地元に残っておじいちゃん、おばあちゃん、電気屋なので、メンテナンスの仕事だとかで、町に残っている方が快適に過ごせるように努力しているが、如何せん商工業者はどんどん辞めていく。薬屋さんもツルハさんしかない。本屋さんも靴屋さんもない、衣料品屋さんもない。お年寄りはどこかに出掛けなければならぬが一人ではどうしても行けない。バスに乗るとかアクセスの方も便利にならない。地域には課題がいっぱい残っているのかなと思う。次回からはそういうことも含めながら、先々を見ながらやっていきたいと思っている。

先ほど木古内町さんからも出ていたが、新幹線の駅が長万部にできる。長万部は乗換駅で大きな駅ができるので、以前は国鉄の町であったが、国鉄の民営化で沈没した町なので、JR、新幹線もケアしながらまちづくりをやっている。また、定住の方も考えながら進めている段階である。次回からこういう会議で色々な話ができればまたしたいなと思っているのでよろしくお願ひしたい。

(八十科委員) 教育委員会の職務代理者ということで、教育の方は子どもたちがどんどん減って、学校の数も減ってきている。私も4児の父親であるが、一番上はもう社会人になっていて、二番目は大学4年生、下はまだ高校生であるが、上の二人は高校から札幌に行って大学は京都に行った。その時に思ったのは近くの函館に子どもが気に入った学校があれば行けたのにということも感じた。そして教育費が多大にかかった。子どもたちがよそにいて経費もかかるので、親は家でカップラーメンをすすめるような生活。そこまで酷くはなかったが、そのような現状があると思う。教育の面でいうと各市町村いろんな案をだして、子どもたちが安心して通えるような学校、教育の場面づくり、学力が向上していけばお医者さんになる人も増えかもしれない。そのように充実していければ良いと感じている。

観光の関係であるが、函館市さんは全国的にも人気ナンバーワンということで、桧山地区でも上ノ国の両隣、松前・江差が北海道遺産に認定されたということもあり、広域で考えると観光で来ると見るところがたくさんあると思うし、長期的に回るのも可能だと思っているのでまだまだ可能性はあると思う。2020年の事もあるし、色々な方が入ってくる。そこまでに、色々な充実した施設で

はないが、案が出て、来た方に喜んでもらえれば何かに繋がっていくのではないかと感じている。

（尾山委員）私は昨日まで名古屋の方に八日間ほど行っていたが、やはり中京圏に限らず東京もそうだが、色々なところで、先ほどもお話があったが、外国人観光客のお客様が泊まる場所、行く場所、乗る乗り物すべてにたくさんいらっしゃるというイメージがあり、そういった部分でもこの桧山にいかにか種を持ち込むかということが大事なのかと感じた。そうなるやはり当然であるが、広域で取り組まなければ、単体では受けきれないという部分もたくさん出てくるだろうし、そうなってくると医療だとか観光など様々な分野でも連携していくことが大事だと感じた。まさにこういった共生ビジョン懇談会の中で少しでも打開する策が見いだせればいいのかと感じている。

（南部座長）5年間最初からこの座長を仰せつかって見てきた中で、皆さんのおっしゃっているように、人口減少、とにかく人がいないという状況、ほかにたくさん課題があるという中で、全然楽観視できないということを思い知らされてくるような5年間だった。思い知らされるというか、この場で勉強して、本当に危機的な状況だと思ったという事があった。その一方で、大きく一気に解決するということができなくても、こういう場で少しずつでもみなさんがやってくれることを共有し種を蒔いて、それぞれはそんなに大きな一歩、ひとりでがんばれということではなかったとしても、それぞれの持ち場で頑張っている話を聞けたということは、私自身が自分の持ち場で教育あるいは研究という持ち場で頑張る、少しでもより良い社会、より良い状態にしていきたいという思いを強くするのに、非常に大きな影響力がある懇談会であった。正直ここで勉強したこと、ここで知ったことが研究の種になったとか、あるいはもうちょっと見なければいけないなと思い、地域の福祉活動の中に入っていききっかけになったので、たいへんいい場を与えていただいたと思っている。これをまた第2次ということで、みなさんが思いの丈を、現場で見たことを思うようにしゃべれて、色々議論して、色々なアイデアを交換してというクリエイティブな場にしていただけたいと思っている。今年度は2回で終わりだが、この懇談会自体はまだまだ続いていくので、来年度はみなさんが委員かどうか未だわからない話だが、関心を持ち続けていただけるとありがたいなと思っている。